

Makuhari's Memory

講師の先生方と仲間から刺激を受けた5日間

研修で一緒になった他自治体の職員が語ったこの言葉が、私の心に深く響きました。DXとは、デジタルツールを導入することではありません。人と人、地域と行政、過去と未来、様々な「アナログ」な要素を紡ぎ、新たな価値を生み出す糸であると私は理解しました。

今回の研修では、DX推進のための様々な考え方を数多く学びました。しかし、その根底には常に「人」の存在がありました。デジタルツールは、あくまで人と人とのコミュニケーションを円滑にし、アイデアや知識を共有するための手段にすぎないということです。

重要なのは、ツールを使いこなす「人」の意識改革です。DX推進は、一部の専門家やリーダーだけで成し遂げられるものではありません。職員や住民の一人ひとりが、問題に対して理解を深め、積極的に解決しようとする意識を持つことが不可欠だと感じました。

同時に、DX推進は、地域社会の課題

解決という明確な目的意識を持って進めるべきです。効率化やコスト削減だけを追求するのではなく、住民の生活の質向上、地域経済の活性化など、具体的な目標を設定し、そこから逆算して必要なツールやシステムを導入していく必要があるということです。

代表幹事として、今回の研修で得た知識や経験を活かし、地域社会に貢献できる施策を立案できる人材になりたいと思いました。職員や住民の声を丁寧に聞き取り、それぞれのニーズに合った仕組みに変革していく。そして、DXを「人と人とのつながりを紡ぐ新たな糸」として捉え、地域社会全体の活性化に貢献していきたいと思います。



内田 智之

埼玉県ふじみ野市
総合政策部情報・統計課デジタル推進係長
〈受講研修科目〉
行政のデジタル化の推進～業務担当部局の業務改革（DX）～
第39期第1組（令和7年度）